

「無難な話」と「攻める話」の違いとは

仕事柄、大変多くの学生の自己紹介を聞きます。弊社では、江戸時代に薩摩藩でおこなわれていた「郷中教育」（先輩が後輩に教える教育制度）を参考にしています。この教育制度は良い点も多いですが、悪いことも起きます。最近、学生さんを見ていて悪い傾向も少し出てきましたので、考察してみたいと思います。



結 婚披露宴での挨拶、会の開会や閉会の挨拶、会社の朝礼や日々のミーティング、講演など、歳を重ねるごとに人前で話す場面が多くなりました。そのような場面での話には「無難な話」と「攻める話」があると思います。

人前で話す際には目的が大事です。挨拶とスピーチの目的は全く違います。挨拶は場の空気を変えないこと、スピーチは場の空気を変えることだと考えます。例えば、結婚披露宴。主賓の挨拶と、友人代表のスピーチでは違います。主賓の挨拶はトップバッターですので無難さが大切です。新郎新婦のご親族もいらっしゃいますから、主賓自身が悪く目立ってしまうと苦笑されます。主賓の挨拶としては、主役の新郎新婦を引き立たせる話をするのは当然として、安定感こそが最も大切です。

変わって友人代表のスピーチは、会の中盤で、お酒も入り場も温まっていることが多いです。よってここでは多少のドッキリなども許容されることでしょうか。逆にここで無難に終わると大体しらけます。勇気を

持って、精一杯盛り上げることが主役・参加者の笑顔にもつながります。

その他にも、大会が終わった後の懇親会の乾杯の挨拶や、締め挨拶の依頼を受けます。無難に話すことが大半ですが、あえて場の空気を変えることにも挑戦しています。私がリーダー教育をしている経営者ということもあり、興味を持って話に耳を傾けてくださる方も少なくないからです。

3分ほどの短い時間で、その会の格を上げ、主催者の心を打つ話ができれば最高です。ある時は1400名が静かに耳を傾けてくださり、話を終えると同時に万雷の拍手をいただいたこともありました。

学

生はいたる所で、スピーチの場が与えられます。就職活動においては、集団面接での自己PRの場です。こういった場で無難な挨拶をしてはインパクトに欠けます。よく見られることですが、先輩から教えてもらった文章、借りてきたような定型的な言葉を並べても、残念ながらあなただけの印象は残りません。

皆さんは挑戦者です。一つひとつがオーディションの場なのです。話にぐっと引きつけられるような、場の空気を変えられるような、そんな話ができるように日頃から訓練してください。

どのように訓練すれば良いのでしょうか。例えば、お母さんに「ご飯が美味しい」と心を込めて伝える。お世話になった店員さんに心を込めて労いを伝える。そうやって、日頃から感謝の言葉を相手に心を込めて伝えるのです。日頃の些細なことに感動し、感謝し、心を込めて想いを伝えていないから、いざ面接やスピーチの場になってもあなたの気持ちが伝わらないのです。

緊張もするでしょうから、誰もがすぐにはできません。心から想いを持って人に話すこと。それが積み重なっていけば、挨拶も無難に安定感を持って話すことができますし、スピーチに想いを乗せて聴衆に訴えることができます。そして人の心を動かすような話ができるのです。「無難な話」と「攻める話」を使いこなせる人になっていきましょう。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲
Murodate Isao

2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国国立マネジメント大学にて講演。全国社内木鶏経営者会 副会長。日台文化交流青少年スカラシップ 審査員。ミス・ワールド・ジャパン2019 審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「応援される人」になりなさい」(ワック)がある。